

原子力災害時の避難時間推計シミュレーションの実施について

1 背景・目的

原子力災害時の避難時間推計シミュレーションについては、原子力災害時の状況に応じた様々な避難手順などを想定し、避難に要する時間を推計することによって、より効率的な避難の方法や交通渋滞対策などを検討するために平成 25 年 10 月に実施したところ。その後、原子力防災対策の充実・強化や後志自動車道の開通など状況に変化があったことから、内閣府が作成した「原子力災害を想定した避難時間推計 基本的な考え方と手順ガイダンス」（以下「内閣府ガイダンス」という。）や他地域の事例を参考に、平成 31 年度に新たにシミュレーションを実施する。

＜主な変更点＞

- ▶ 平成 30 年 12 月の後志自動車道（余市～小樽間）の開通に伴う避難経路の見直しを反映
- ▶ 北海道地域防災計画及び「泊地域の緊急時対応」に基づく安定ヨウ素剤緊急配布及び避難退域時検査に要する時間を追加
- ▶ 「原子力災害時における住民避難用バス要請・運行要領」に基づく車両中継ポイント及びバス集合場所を反映
- ▶ 内閣府ガイダンスに基づき推計する避難時間、計算条件を設定

2 推計する避難時間

内閣府ガイダンスや他地域の事例を参考に、次の区分により推計する。

区 分	内 容	備 考
UPZ 離脱時間	PAZ 及び UPZ に該当する避難等実施単位から緊急防護措置準備区域を離脱するまでに要する時間	前回実施
避難先到着時間	避難対象住民がそれぞれの避難計画で指定された避難先まで避難するために必要な時間	新規
平均移動時間	避難等実施単位に居住する住民あるいは一時滞在者が避難元から避難先までの移動に要する平均時間	新規

3 計算条件の考え方

内閣府ガイダンスや他地域の事例を参考に、UPZ の一時移転は OIL に基づく緊急時モニタリングの結果から区域を特定し一時移転を実施することを想定する。

＜計算条件＞

避難手順、自家用車利用率、自主避難率、季節・時間帯、複合災害等を組み合わせた条件の中から、実際に起こる可能性の高い組み合わせ、又は特に考慮すべき組み合わせを計算するほか、UPZ 全域避難とした場合や交通渋滞対策を実施した場合などを追加して計算を行う。

※シミュレーションの基礎資料とするため、UPZ 住民に対し避難手段等に関する調査を実施予定

4 シミュレーション実施後の対応

- (1) 原子力災害時における交通渋滞対策への活用
- (2) 地域防災計画（原子力防災計画編）に基づく各種要領等への反映
- (3) 住民の理解促進に係る取組への活用

これらについて、今後の原子力防災訓練において実践